

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 2月 21日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170401665		
法人名	有限会社 メティス		
事業所名	グループホーム あさひの杜		
所在地	札幌市手稲区本町2条2丁目4-24 (電話) 011-681-3022		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成21年2月19日	評価確定日	平成21年2月25日

【情報提供票より】 (21年 1月 31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和 <b>平成</b> 17年 12月 10日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 5 人
職員数	8 人 常勤 5人, 非常勤 3人, 常勤換算 2.5 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1~2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000~45,000 円	その他の経費(月額)	水熱・水費: 20,000円 暖房費: 10,000円 (10~4月)	
敷金	有 ( 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<b>有</b> ( 10,000 円) 無	有りの場合 償却の有無		有 / <b>無</b>
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要 ( 1 月 31 日現在 )

利用者人数	5 名	男性	1 名	女性	4 名
要介護1	2 名	要介護2		0 名	
要介護3	3 名	要介護4		0 名	
要介護5	0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 76 歳	最低	70 歳	最高	83 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 宮の沢総合クリニック なかお歯科クリニック
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームあさひの杜は、JRの主要駅から徒歩5分の市街地に位置しており、家族等の訪問や買い物にも便利な環境にある。建物は、民家を改造した落ち着いた暖かな雰囲気である。運営者は、自身の家族介護をきっかけに、利用者が自然に穏やかに毎日の生活を送ることができる場所を作りたいとの思いからこのホームを立ち上げた。ホーム内では、利用者が、一人ひとりゆったりとした時間を過ごしている様子が感じられた。運営者の真摯な姿勢が20代から50代までの幅広い年齢層のスタッフに反映し、全員がサービスの向上に熱意を持って取り組んでいる。地域との交流が盛んなこともこのホームの特徴である。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	災害対策では、自動火災通報装置を設置するなどの改善を行った。また、介護計画に「センター方式」を採用する予定は延期になっているので、21年度には取り組む予定になっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	自己評価の実施には、前年度の外部評価の結果を踏まえ、運営者を中心とし、スタッフ全員が「新しい気づき」を得られる機会として取り組んだ。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議の話し合いの中で、過去においては、警報装置の設置が実現している。また、自己評価や外部評価の内容を議題としてサービス向上に生かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	「ホーム便り」を毎月家族宛てに発行している。「ホーム便り」では、個人ごとの近況もお知らせしている。家族等に対して気軽になんでも話し合える雰囲気作りを努めており、不満や意見が出た場合は、その都度運営者がスタッフと話し合い解決するように努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
重点項目④	運営者は、町内会の役員を引き受けており、スタッフ・利用者とともに地域の行事には積極的に参加している。また、運営者は、依頼に応じて町内会や老人会で、グループホームやお年寄りの尊厳に関する話をするなど地元との交流は盛んである。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念は、事業所独自のものであり、分かりやすく明快な内容である。玄関の正面と居間に掲げられ、ホームの運営上の方針や目標等に生かされている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者（管理者）は、毎月の定例の会議やカンファレンスの際、スタッフに対する日々の問いかけなど機会のあるごとに理念を全員で確認し合い、理念の共有に努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営者は、町内会の役員を引き受けており、スタッフ・利用者とともに地域の行事には積極的に参加している。また、町内会や老人会でグループホームやお年寄りの尊厳に関する話をするなど地元との交流は盛んである。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の実施には、運営者が中心となりスタッフ全員で取り組んだ。外部評価の結果を踏まえて改善に取り組んでいる。	○	自己評価・外部評価の意義について、スタッフ全員が「新しい気づき」を得られる機会として、少しでも共通理解を深め、更に改善に努力していくことを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、過去に警報装置の設置が実現している。また、自己評価・外部評価も議題として、サービス向上に生かしている。会議の開催は、発足当時は2ヶ月ごとの開催であったが、20年度は体制の都合等で3ヶ月に1回の実施であった。21年度には再度2ヶ月ごとの開催を予定している。	○	現在は、体制が整ってきたので、21年度には再度2ヶ月ごとの開催を予定している。ホーム側からの報告とともに、参加者からの意見・要望を受けた双方向的な話し合いを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は、区の担当者と、月平均して5～6回と頻繁に意見交換をしており、市の担当窓口にも機会のあるごとに訪問し、積極的に情報提供を行なっている。	○	これからも、引き続き区や市の担当者と積極的に意見交換を行っていくことが期待される。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「ホーム便り」を毎月家族宛てに発行している。「ホーム便り」では、個人ごとの近況もお知らせしている。金銭出納報告も毎月郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等に対しては、気軽になんでも話し合える雰囲気作りに努めている。不満や意見が出た場合は、その都度、運営者がスタッフと話し合い解決するように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの離職については、利用者への配慮とともに家族等への不安に応えるため、「ホーム便り」などによる状況説明や運営推進会議などで報告している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームでの内部研修や連携先の他グループホームでの実地研修を行っている。外部研修については、全員が受講しているわけではないが、受講したスタッフが報告書を提出し、会議での報告等を通じて他のスタッフと研修内容を共有している。21年度からは、外部研修を積極的に取り入れる計画がある。	○	21年度からは、随時、スタッフに外部研修を受講させる計画ができているとのことであり、取り組みに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、区の管理者会議に積極的に参加しており、区内のグループホームと交流する仕組みを企画しているところである。	○	運営者は、区内のグループホーム24箇所と交流する仕組みを企画しているとのことであり、取り組みに期待したい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、本人や家族等にホームを見学してもらっているが、本人が来られない場合は、管理者が訪問するようにしている。利用開始後には、管理者が、利用者と1週間程かけてゆっくり話をし馴染みの関係をつくっている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフは、利用者に対して、人生の先輩として以前従事していた仕事や生活・遊びの内容を具体的に話してもらい、時には利用者にスタッフが人生のアドバイスを受けて励まされたりと、共に過ごし支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	運営者及びスタッフは、利用者との日々のかかわりの中で、会話や表情から一人ひとりの思いや意向について関心を寄せ、把握しようと努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向を踏まえ介護支援専門員と管理者、スタッフでカンファレンスを行い介護計画を作成している。計画は、本人には説明していないが家族に説明し、同意を得ている。昨年から導入を検討していた情報収集と分析のための書式である「センター方式」については、新年度から実施する予定である。	○	センター方式を導入することなので、その取り組みに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、入居後1年以内は3ヶ月ごとに見直しを行っている。定例会議やカンファレンスで心身の状況の変化を話し合い、本人や家族の考えを把握して介護計画の見直しをしている。	○	介護計画のサービス内容について具体的に記載していきたいと考えているので、その取り組みに期待したい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	管理者のネットワークを活用して老人保健施設や、医療機関との連携を図っている。個人の希望による買物などの外出支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時にかかりつけ医を確認し、継続して受診できることを説明しているが、ほとんどの利用者は協力医療機関に変更している。定期的な訪問診療を受けることで適切な健康管理が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「あさひの杜における重度化した場合の対応指針」の書面を用いて本人、家族と話し合いをしている。必要に応じて家族、医療機関と事業所で繰り返し話し合い、方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その人の誇りを損ねるような言葉遣いは、スタッフ間や管理者がその場で注意をしている。スタッフが不適切な言動に気づき、利用者に謝るという場面もある。個人情報の記録は1階の机の引き出しに保管し、プライバシーの保護を徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やおやつ、入浴時間などの日課はあるが、利用者中心の静かな生活を支援している。利用定員が5名という小規模の特性を活かしながら裁縫をしたり、お茶を飲んだりと個々の意思でその日を過ごしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は業者に委託し食材は事業所で買出しをしている。運営者は、調理師の免許があるため、料理を担当する際は全員に喜ばれている。利用者も個人の力に応じてホットケーキを焼く、もやしの根を取る、テーブルを拭く、食器を拭く、下膳をするなどを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低週2回、月曜日と金曜日の9時30分頃から12時30分を目処に、5名全員が入浴をしている。希望者は他の曜日でも入浴できる。本人の心身の状況に応じて随時の入浴とし、同性介助を行っている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	体操をする時や食事の発声練習(嚥下訓練)をする時の音頭を取る、花畑の草取り、水遣り、ゴミ出しなどの各々の役割を持って生活している。隣接している地域の会館に出かけ、カラオケやダンスを楽しむこともある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏季は洗濯物を干す、庭の水遣り、畑作業などで日常的に屋外に出る機会がある。一対一での散歩や車いすでホームの周辺を散歩している。冬季の外出は、天候や路面状況の影響もあり、減少するが家族が外出支援することもある。	○	冬季の外出支援の取り組みが実現できるよう、期待したい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。一人で出かけた場合は、隣接している地域の会館、郵便局、商店との地域連携があり、見守りの体制ができています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、自主訓練を実施し通報や避難訓練をしている。利用者が参加して避難訓練を行った際には、時間を要することを実感し、災害対策として自動通報火災装置を設置した。町内会長宅が避難場所となっており、地域の人々の協力は得られている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は個別に日々の記録をしている。水分量は、食事以外から1500ml前後を目標としているが利用者は、それぞれに食欲があり十分に確保されている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	戸建住宅を改造し1階に2つの居室と2階に3つの居室がある。居間のベランダからは、大家さんが庭師を雇い、手入れをしている庭を眺めることができる。居間は、一般の家庭と同じしつらえで、ソファに座りながらテレビを観て料理の臭いや音などを感じることができる。玄関に職員の顔写真と氏名を掲示し、利用者が紙粘土で作った花を飾っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各々の居室は、畳やフローリングなどの個性があり、ベッド、鏡台、テレビ、仏壇などを持ち込み本人が居心地よく過ごせるよう配慮をしている。また、表札や暖簾を掛けるなどの工夫をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。